

## 一人一人に寄り添うために

始良・伊佐教育事務所長 上拂 博文

2024年のプロ野球は、横浜DeNAベイスターズがリーグ3位からクライマックスシリーズを勝ち上がり日本一となった。いわゆる下克上である。下馬評を覆し、筋書きのないドラマを創り出した誇らしげな選手の輪の中で、一際異彩を放つ女性の姿。DeNA創設者、南場智子オーナーである。日本一になった初の女性オーナーは、週一で球場に通い、選手全員の応援歌を歌え、選手だけでなく、ファンからも「ママ」と慕われる。「お金は出す、球場に顔も出す、ただ現場に口は出さない」オーナーは2024年、心の持ちようを少し変化させた。「上手くいっている時はなぜ上手くいっているのか、上手くいっていない時はなぜ上手くいっていないのか」を理解するために、月に1回、監督から詳細な報告を受けるようにしたとのこと。

令和4年に「学習面や行動面で著しい困難を示すとされた児童生徒数の割合を推定する」調査を行ったところ、平成24年調査における推定値6.5%に対して、今回は8.8%となった。また、令和5年度の国立、公立、私立の小・中学校の不登校児童生徒数は約34万6千人と過去最多となった。

今まで以上に学校には、子供一人一人の気持ちや状況を理解し、共に考え、共に歩む「一人一人に寄り添う」ことが求められている。

先日、自由進度学習を推進する学校の授業参観を終えた指導主事から、次の報告を受けた。

指：「困り感をもった児童が一定数在籍していると聞いていましたが、どの児童も意欲的に課題解決に取り組んでいたことに驚きました。自分でやりたいところを決めながら進めていく学習が停滞することも、他の事象等に意識が向き、周りに迷惑をかけることもありませんでした。」

私：「授業を終えた児童に（授業前と比べて）高まりはあった？」

指：「どの児童からも解決できた達成感だったり、次はこうしようといった意欲だったりが感じられました。」

子供一人一人に学力を身に付ける方法は学ぶ環境（人・場所・教育課程等）を含め、いろいろあって良い。大切なことは、変えたことで「学力が身に付いたか」であり「身に付いたのは何故か」または「身に付かなかったのは何故か」と子供理解に努めること、そして、困り感への適切な対応につなげ豊かな可能性を開花させることである。

球春到来。2月1日、プロ野球12球団が2025年度のリーグ優勝、そして日本一を目指し、動き出した。学校も一人一人に寄り添うべく、新年度の学校経営、学級経営に向けた準備を進めている。ただ、今年度の成果と課題を踏まえ、どんなに熟考を重ねても、想定外や不測の事態は訪れる・・・。

ふと、南場ママの著書「不格好経営」の帯の言葉に目がとまった。「経営とは、こんなにも不格好なものなのか。だけどそのぶん、おもしろい。最高に。」

やるべきことに集中し、あきらめず試行錯誤を繰り返すことで見えてくる一人一人への寄り添い方。新年度も楽しみだ。

## 始良・伊佐地区教育論文・実践記録

今年度も多くの先生方から幅広い研究・実践の応募がありました。応募作品527編の中から10編を教育論文・実践記録集にまとめました。今後の教育活動において大変参考になる実践が掲載されています。ぜひ御活用ください。（教育論文・実践記録集は、3月配布予定です。）

## 【掲載者一覧】

福田 弥彦 教諭（霧島市立国分南小学校）	I C T	秋葉 なつみ 教諭（霧島市立牧園小学校）	特別支援教育
大重 嘉孝 教諭（霧島市立国分南中学校）	郷土教育	森 美佳子 養護教諭（伊佐市立平出水小学校）	保健指導
村田 慎一 教諭（伊佐市立針持小学校）	体育科	福永 拓世 教諭（始良市立加治木小学校）	理科
本多 浩輔 教諭（始良市立建昌小学校）	社会科	重富小学校 研修部（始良市立重富小学校）	研修
岩松 麻美 教諭（始良市立建昌幼稚園）	幼児教育	野口 美貴 教諭（湧水町立吉松小学校）	道徳科

# 「学習者主体の授業」づくりのために

## 鹿児島学力・学習状況調査の始良・伊佐地区結果から

各学校において、鹿児島学力・学習状況調査の結果分析が行われ、確かな学力育成のための取組が進められていることと思います。今回は、学力の土台となる資質・能力である「学びに向かう力、人間性等」に関わる「非認知能力」や主体的な学びなどの「学び方」等について、学習状況調査の始良・伊佐地区結果をお知らせします。(数字%)は、強肯定の割合で、R.7.2.17現在のもの。( )内は、県平均との比較)

質問項目	小5	中1	中2
① 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。	28.3 (+1.1)	24.4 (+3.7)	20.1 (+3.3)
② 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。	28.2 (+1.7)	25.1 (+1.7)	25.6 (+2.5)
③ この学年で受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。	34.1 (+2.5)	25.5 (+1.0)	25.4 (+2.0)
④ 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。	58.5 (+1.9)	52.4 (+1.7)	53.4 (+4.3)
⑤ 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。	39.8 (+0.1)	32.9 (+2.0)	30.5 (+2.3)
⑥ 自分でやると決めたことは、やりとげるようにしていますか。	49.8 (+1.9)	47.0 (+2.3)	46.2 (+2.6)

上記結果をみると、協働的な学びや粘り強さに関しては、意識が高いことが伺えます。一方、自己調整に関する質問項目の中で、①～③は、全体的に低い傾向にあります。「今後の教育課程、学習指導及び学習評価等の在り方に関する有識者検討会 論点整理」(令和6年9月18日)において、学習者が主体的に学ぶ中で自ら学習を調整しつつ資質・能力を身に付けることの重要性が述べられています。「学習者主体の授業」づくりを進めるために、自校の結果を分析し、課題解決のための共通実践事項を設定して取り組むとともに、定期的な振り返りを行うことで、PDCAサイクルによる授業改善を目指していきましょう。

## 「学習者主体の授業」実現プロジェクト ～子供の学びの姿から始まる校内研修推進プロジェクト～

本年度から「学習者主体の授業」実現プロジェクトが始まりました。始良・伊佐地区では実践モデル校区を伊佐市立大口中央中学校区、実践校区を霧島市立霧島中学校区、湧水町立栗野中学校区として、プロジェクトを推進しています。今回は、大口中央中学校の取組について紹介します。大口中央中学校では、以下のような取組を進めました。

- 月1回の相互授業参観(のべ32回)、授業研究(8回)の実践
- 職員合同研修(研究授業)を年間に3回(4教科)実施
- 毎学期「学習者主体の授業実践」についての教師向けアンケートを実施
- 学期毎に「もっと自分で学びたい」という場面が授業時にあったかを全教科全学級で生徒アンケートの実施



研修会における授業では、授業づくり段階からチームとして取り組み、指導案検討、事前授業等充実した準備を進めました。当日は、子供が自らの問いを解決するために、試行錯誤を繰り返し、協働して学ぶ姿が見られました。また、授業研究においては、子供の姿を基に協議を行うことで、小中や教科の枠を越えて積極的に語り合う先生方の姿が見られました。確実にこのプロジェクトが浸透してきていると感じました。

大口中央中学校で実施した「学習者主体の授業実践」についてのアンケートでは、意識し実践することができたと回答した職員の割合が、55%向上しました。また、生徒への「もっと自分で学びたい」アンケートでは、4段階評価で全校平均がやや向上しました。「学習者主体の授業」づくりに向けて、教師も生徒も主体的に取り組んでいることが伺えました。

各学校でも「学習者主体の授業」実現のための取組を進めていると思います。ぜひ、一緒に授業づくりや研修の在り方等について考えていきましょう。

# 令和5年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題

## 1 いじめについて

「見逃し、見過ごし、見落とし」を防ぎましょう！



鹿児島県の結果

### 【状況】

- ・ 小学校、中学校ともに前年度と比較して認知件数が減少している。
- ・ 発見のきっかけは、「アンケート調査など学校の取組により発見した。」が最も多く、次に「本人からの訴え」、「学級担任が発見した」が続いている。
- ・ いじめの態様としては、「冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる」が最多



学校としてできること

- 生徒指導委員会等の週1回の定期的な開催  
(いじめの積極的な認知、正確な解消、未然防止と早期対応に向けた対策)
- いじめに関するアンケートの年5回以上の確実な実施
- 「いじめ防止対策推進法」に基づく対応(積極姿勢)
- いじめの認知件数が0だった学校においては、当該事実を児童生徒や保護者向けに公表し、検証を仰ぐことで、認知漏れがないかを確認

認知件数の多い学校ほど、積極的に児童生徒に関わっています！

## 2 不登校について

早期の問題発見と対応、継続的なフォローアップが大切です！

### 【状況】

- ・ 小学校、中学校ともに前年度と比較して増加している。
- ・ 不登校の主たる理由は、「学校生活に対してやる気が出ない等の相談があった。」が最も多く、次に「生活リズムの不調に関する相談があった。」、「不安・抑うつ」の相談があった。」が続いている。



学校としてできること

- 児童生徒一人一人の状況を把握する取組が確実になされていますか。(小中連携、児童生徒の情報共有)
- 個に応じた適切な支援方法で対応していますか。(一人一人に寄り添う指導)
- 新規の不登校者を生まないための「居場所づくり」(学校)と「絆づくり」(児童生徒)に努めていますか。(魅力ある学校づくり)
- 「分かる・できる」授業が展開されていますか。(子供にとって魅力ある授業)



鹿児島県教委作成の「不登校支援ガイド」の活用を！

## 「子供を大切にする」とは ～替えの靴下～

指導課長 宮路 公貴

以前、勤務していた学校でのことである。朝、天気予報通りの強い雨。子供たちの安全を願いながら交差点に立って、登校の様子を見守った。雨の日は、子供たちを学校に送る車も多い。「車で送って。」と子供がお願いしたのか、「送るから。」と家の人が出たのか分からないが、続々と車から子供たちが降りてくる。

一方で、風雨の中を歩いてきた子供たちの足元はびしょ濡れで気持ち悪そうだ。歩いて登校した小学2年生の子は、車から降りてくる同級生を見ながら、「いいなあ。」とつぶやいていた。その子は、いつも歩いて登校している。雨が降りそうな時は、家の人から替えの靴下とタオルをランドセルの横に準備してくれると話してくれた。頑張ってきたことを褒め、替えの靴下とタオルを準備して送り出してくれる家の方の想いを私なりに伝えた。濡れて重くなった靴下を脱ぎ、乾いた真っ白の靴下に履き替えて、気持ちもりセットして元気よく教室に向かう姿が印象的だった。

車で送ってもらった子は確かに靴下も濡れず、嫌な思いはしてない。雨に濡れた靴下は確かに不快ではあるが、こうした経験は、これからの成長を後押ししてくれるに違いない。

今も雨の日に歩いて登校している子供たちの姿を見ると、心の中でエールを送りながら、「子供を大切にする」ことの意味を考えている。

## 令和6年度地区研究協力校（6校）研究公開の様子

学校名・公開日等	研究テーマ等	研究公開の内容	研究公開のまとめ
始良市立 始良小学校 「道德教育」 R6.6.28公開	考え、議論する道德を目指して～ 道德の特質に応じた「協働的な学び」の充実～	「価値観」「児童観」「教材観」を明確にした授業づくりや「考え、議論する」ための中心発問・テーマ発問の工夫、協働的な学びのための聴き合う場・深める場の設定、「あいらの木」や「ふわふわ言葉のシャワー」等の掲示による道德性を養う環境づくり等の実践に取り組みました。公開授業では、役割演技や意見交流を通して、自分の考えを基に友達が多様な考えに触れ、考えを深める姿が見られました。	
始良市立 加治木中学校 「道德教育」 R6.7.12公開	自他ともに尊重し、豊かな心を育む道德教育の在り方	研究発表では、主体的に考えを伝え合う活動の工夫として、発問や疑似体験的な学習、まとめシートを活用した取組、効果的なICTの活用や、全職員によるローテーションでの授業等の取組も紹介されました。公開授業では、グループ討議で、登場人物の立場になって考えさせようとして、再度、自分だったらどのような行動をとるのかを「心の数直線」に表すとともに、自分の考えを広げたり、深めたりする姿が見られました。	
霧島市立 中津川小学校 「小規模校・複式指導」 R6.10.10公開	児童に確かな学力をつける算数科の授業づくり ～ガイド学習の充実及びICTの効果的な活用を通して～	ガイド学習や間接指導の充実、ICT機器の効果的な活用による複式学級における個別最適な学びの時間の充実に関する実践を通して、児童が主体となって授業を進め、考え、学ぶ算数科の授業の実践に取り組みました。公開授業では、児童は学習の見通しをもち、黒板の学習の流れやガイド学習進行表を手掛かりに、主体的な学習を進めていました。また、相互の意見を交流したり、考え方のよさや違いを比較・検討したりしながら、見方や考え方を見いだそうとする姿が見られました。	
始良市立 西始良小学校 「ICT活用」 R6.11.27公開	ICTを効果的に活用し、主体的・対話的で深い学びを目指した授業づくり ～算数科の学習を通して～	研究発表では、「ICTを効果的に活用し、お互いの意見を交流し学び合う場の工夫」、「ICTを活用した学習の振り返り（はかせのちよきんばこ）」等について説明がありました。また、5年生の算数科の公開授業では、図や言葉を使って自分の考えをノート、またはロイロノートを使って考え、その後、お互いの考えを見せ合いながら、相違点を確認したり、質問し合ったりする様子が見られました。	
湧水町立 吉松小学校 「算数科」 R7.1.28公開	自ら課題と向き合い、他者と協働しながら課題解決に向けて学習に粘り強く取り組む子供への育成 ～「数学的な見方・考え方」を働かせる授業を通して～	「自ら問いをもつことができる学習課題の工夫」、「自らの考えを形成しやすい手立ての工夫」、「対話や協働の必要性がある手立ての工夫」「視点を意識した振り返り」に関する具体的な実践を通して、数学的な見方・考え方を働かせる授業の実践に取り組みました。公開授業では、生活経験と関連させた学習課題や実態に応じた学習課題の提示により、子供たちが自ら問いをもちながら主体的に学習に取り組む姿が見られました。	
始良市立 柵城小学校 「ICT活用」 R7.2.13公開	自立した学び手育てる学習指導の在り方 ～学び方の自己決定と振り返りの習慣化を通して～	研究発表では、「自己の課題解決に向けて、解決方法を自分で決め、それを実践し、その成果や課題を振り返りながら学び続ける子供」を育成するために、「学び方を自己決定する場の在り方」、「学び方を振り返る場の在り方」等について説明がありました。また、6年生の算数科の公開授業では、公式を使わずに道のりや時間を最小公倍数で「そろえる」ことで2つの列車のうちどちらが速いかを比較する内容でした。	

## 始良・伊佐地区生涯学習推進大会

本地区では、毎年、生涯学習の振興と活力のあるまちづくりを目的とした生涯学習推進大会を開催しています。本年度は、2月2日（日）に霧島市溝辺公民館において開催し、各市町から200人を超える方々に参加いただきました。

大会では、地区内で社会教育の振興に顕著な業績を挙げた方々の表彰を行うとともに、各市町代表による「海外派遣報告」、「姉妹都市交流活動発表」、「スポーツ推進委員の役割や活動内容発表」、及び「公民館講座卓球教室活動発表」を通じて、各市町の生涯学習の取組について学ぶことができました。

また、有料老人ホーム「善の心」施設長 藤崎えり子氏の講話「この世に生かされている私」から、「認知症について正しく理解することの大切さ」、「出会った様々な人の思いを受けながら自分は生かされていること」などについて学ぶことができました。

今回の学びを通して身に付けた知識や考え方を生かし、地域の連帯感をさらに高めるとともに、それらを地域づくりに生かすことで、「生涯学習によるまちづくり」の更なる推進につながることを期待します。

## シリーズ!! 始良・伊佐教育事務所員が紹介する私の元気の出る言葉 ⑱

### 「ただいま」、「おかえり」

何気ないあいさつの言葉かもしれない。私にとっては、自分の存在と相手の存在を大切に「居場所づくり」の言葉である。

うれしかった時には、笑顔いっぱい伝える。そうすると、お互いの心がより温かくなる。悲しかった時にも、思い切って伝えてみる。そうすると、お互いの心が寄り添うきっかけになる。

学級担任の時にも、子供たちと伝え合ってみた。「あなたのことを待っていたよ。」「ありがとう。」と心で思いながら。(K.S)

## 小・中学校臨時的任用職員募集

始良・伊佐地区で先生になろう!



未来を拓く子供たちの良き伴走者になりませんか。  
 (問合せ・連絡先)  
 始良・伊佐教育事務所 管理課  
 電話 0995-63-8133  
 ↑申込み方法等はコチラから  
 ↑PR動画はコチラから